

目的 伝承的料理及び食品の現状を把握し、それらの保存、復活の方法等の問題についての学生の意識調査の結果を、集約して表現する統計的手法を用いて検討した。

方法 伝承的料理及び食品の現状ならびに今後の見通しについて、a, 「このまま伝承されるか」、b, 「衰微しているものについて復活の可能性はあるか」、c, 「食品工業、食品流通の影響などによって変形するが、残る可能性はあるか」など、学生554名に行った記述方式によるアンケート調査(共立女子大学家政学部紀要 第30号)のほか、学生のイメージ調査を資料とした。

解析には要因別対象ヒストグラム、パレート分析、多重回帰分析などの方法を用いた。

結果 学生の伝承的料理及び食品に関する意識は、伝承についての楽観的、悲観的視角の特徴が、材料入手、地域社会、家族構成、栄養、味の嗜好、調理の難易、商品的価値等から検討されており、地域的な特色がみられた。また、伝承の存続、復活対策の方向付けについても、東西地域により、意識に差があり、対策の重点も異なるべきであらうと考えられた。

学生の伝承の味の把握からは、味の好みについては、魅力あるものが伝承の可能性を示した。